千葉県学校体育の史的考察(Ⅲ)

A Historical Study of Physical Education in Schools of Cniba Prefecture(Ⅲ)

島 田 良 吉
Ryokicki Simada

はじめに

千葉県学校体育の史的考察(Ⅰ)においては，千葉県学校体育の黎明期とも云うべき明治時代より，大正，昭和と第2次世界大戦迄の推移を概説した。(Ⅱ)においては戦後の連合軍管理下の厳しい状況下の日本学校体育の歩みを，主として文部省の通達によって行はれた時代より，学校体育指導要綱（昭和22年8月）が公布迄更に，学習指導要領体育編（昭和24年9月）によって行われた時代，引き続いて中学校，高等学校学習指導要領保健体育科体育編（試案）が制定された昭和26年7月に至る間の事状を述べて来た。そして今回は千葉県学校体育振興に重要な役割を果した県教育機関並に学校体育研究，指導団体の活動に焦点を当ててその活動状況について述べる。

(Ⅰ) 千葉県体育行政について

1．体育主管課の変遷

(1) 第2次世界大戦より昭和20年頃の，体育，スポーツ関係の主管課は、県庁学務課体育係であった。その後昭和21年には社会教育課が学務課から分離独立した。そして体育係も社会教育課の中で体育関係事務を担当しておった。この頃勝田友三郎県議が中心になり優秀なスポーツ選手を県会議事堂で表彰した。このことはスポーツに対する社会的関心を高め，戦後の県下スポーツの振興機運の端緒を作った点高い評価にあたいした。

(2) 戦後体育課が設置されたのは昭和22年12月のことであった。これは全国でも，きわめて早いことであった。初代課長には，西沢正が昭和23年3月1日発令され，体育、スポーツの組織作りから，荒廃した県営スポーツ施設[注)]の復旧にとりかった。西沢課長を補佐した人に，山口信一学校体育係長（千葉師範学校より転出）の存在は高く評価しなくはならない存在であった。

(3) その後わが国教育史上画期的な教育委員会制度が制定されたのは，昭和23年7月のことであった。このことにより，体育，スポーツに関する事務が知事部局より独立して，教育委員会体育課で行われるようになった。体育行政の組織および運営についてその性格が変った。

昭和24年2月機構改革に伴い，体育課は健康教育課と改称した。その組織は，庶務係，衛生係，学校体育係，社会体育係，学校栄養係の5係であった。昭和26年8月，西沢課長が転出（高等学校長として）して，内田早苗が課長に発令された。尚その後昭和28年5月の第3次機構改革により，健康教育課は保健体育課と改称された。その組織は，庶務係，保健係，給食係，学校体育係，社会体育係であった。

(4) 昭和31年4月に本県体育振興のため，体育指導員に関する規程が定められ，7月には，体育指導員500名が委嘱された。

注）県民スポーツの殿堂として建設された県営綜合運動の施設も，時代の要請，国策により食糧増産の畑と化して，体育施設としての機能を果し得ない状況にあった。

(5) 内田早苗課長は，昭和36年5月まで就任し，後任課長として河村寛が徳島県教育委員会から着任した。

(6) 昭和37年4月，千葉県スポーツ振興審議会がスポーツ振興法の根拠法として設置され，教育委員会の諮問に応じ，スポーツ振興に関する重要事項について調査審議し，教育委員会または知事に建議することになった。昭和37年に委嘱された委員は次のものであった。榎沢正夫，加藤邦男，川瀬信雄，川名正義，楠原信一，児島健爾，佐藤信平，菅野儀作，高橋誉富，田中嘉雄，田村利男，鶴岡武男，遠山喜一郎，林信義，右島四郎，官永弦直，山口久太，矢村春雄，彦坂宏三郎，藤崎吉之助，川上紀一，山岡雄教の各氏であった。

(7) 昭和38年12月から，保健体育課が学校保健課（庶務係，保健係，安全係，給食係）と体育課（庶務係，学校体育係，社会体育係，運動競技係）に分離独立して，学校保健課長には河村寛，体育課長には，羽山孝二が12月1日付で発令になった。

このことは，東京オリンピックを目前にして，社会状勢の変化に伴い，保健，体育，スポーツの質量共に発展，充実し，事務内容の拡大の結果，1課ではまかない切れなくなった為の措置であり，学校体育関係の一層の発展が期待されることになった。

2．県営体育施設の整備充実

(1) 太平洋戦争の結果荒廃した体育施設の修復は，昭和23年に体育課を中心に，他の関係者によって計画された。特に第4回国民体育大会軟式野球が千葉県で開催が決定してから，県議会のスポーツ議員をはじめ，体育課，体育協会，野球協会等の熱意によって，野球場改修工事の促進をはかった。

丁度この頃は戦後の混乱，疲幣の時代から徐々にではあるが回復の兆が出て来た時であり，予算獲得に対して非常な努力を必要とした。

(2) 第4回国民体育大会軟式野球は，千葉市に三笠宮殿下をお迎えして，盛大に開催された。この大会の開催により，スポーツに対する県民意識の昂揚にあづかること大であり，加えて知事，県議会議員等の理解も一層深まった。これが県営綜合運動場改修，整備，充実の大きな端緒となった。このようにして，スポーツ愛好者，およびスポーツ団体等の努力によって施設の整備，充実が遂次実現された。

○昭和24年……野球場，バレーボール競技場，四街道体育館改修工事
○昭和26年……陸上競技場改修工事
○昭和27年……庭球場，相撲場，クラブ，ハウス（新設）

さらに昭和28年柴田知事を会長とする県営体育施設拡充委員会が設けられ，総予算9,000万円で体育館をはじめ各種の体育施設の建設が企画された。昭和28年に体育館の第1期工事が始められ，第2期工事としての本館は昭和31年1月14日に完工した。第3期工事として附属施設は570万円の予算で昭和32年12月に着工して翌33年3月に完成した。

(3) また昭和34年，オリンピック東京開催の決定は，全国的にスポーツ振興のムードが拡充し，本県においても昭和36年に県スポーツセンター用地として，千葉市天台町に，172,510坪の土地買収が決定したことは特筆大書すべき事柄であった。

(4) 又昭和31年に千葉県スポーツ記者会が，グリーン・リボン賞を設定して，年間最優秀スポーツ選手を表彰することになった。被表彰者は次のものであった。

○昭和31年度……大坪政士（木更津第一高校）陸上競技
○昭和32年度……岡崎高之（木更津第一高校）陸上競技
○昭和33年度……森　　毅（銚子商高校）野球
○昭和34年度……山口さだ子（白井中学校）陸上競技……奨励賞

前田誠二（館山第二中学校）水永……奨励賞

○昭和35年度……千葉相互銀行野球部

吉原桂一（銚子商高校）陸上競技……努力賞

○昭和36年度……旭ガラス，ヨットチーム

永島雅子（長生高校）陸上競技……敢闘賞

(Ⅱ) 千葉県小・中学校体育連盟

1．連盟の変遷

(1) 昭和22年4月，新制中学校が発足し，同年県教委主催による第1回県下中学校体育大会が開催された。

2．結　　成

(1) 昭和24年4月，千葉県小・中学校体育連盟が結成された。初代会長として，多賀四郎が選任され，事務局を千葉市院内小学校においた。そして千葉県体育協会に加盟した。

(2) 昭和29年，関東中学校体育連盟が結成され，これに加盟した。

(3) 昭和30年，全国中学校体育連盟が結成され，これに加盟した。
第1回中学校放送陸上競技大会が開催された。

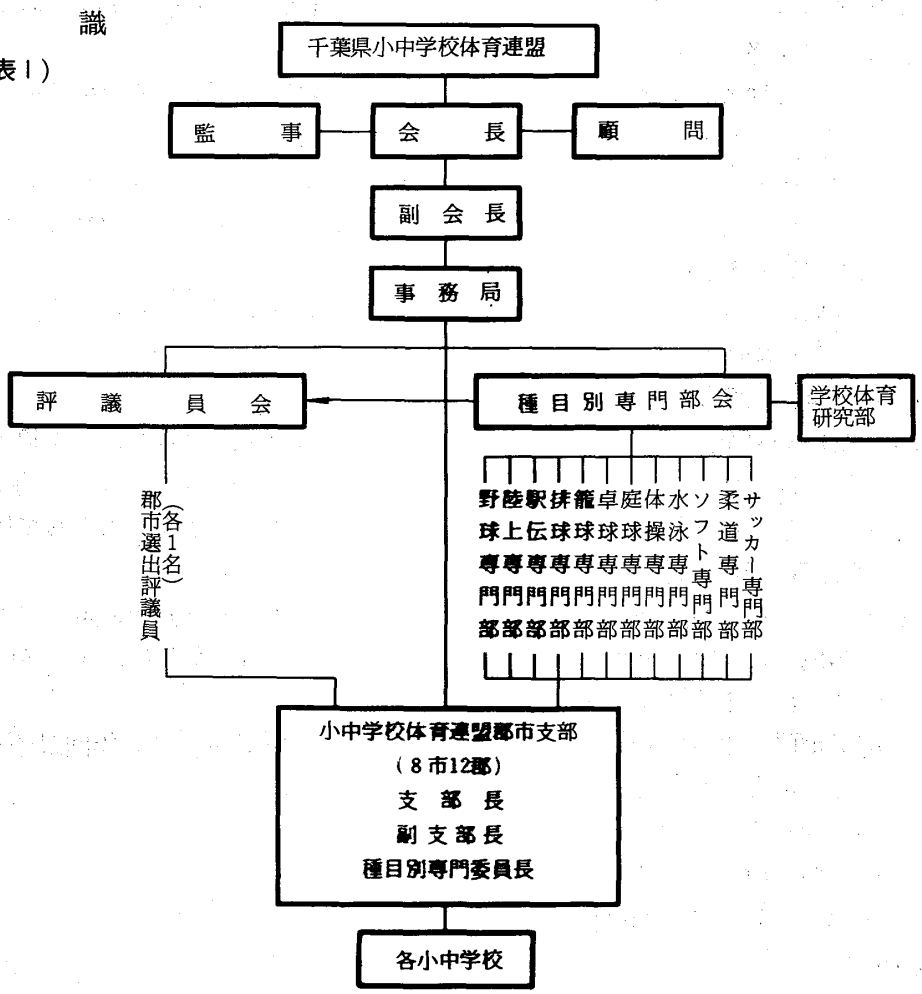
(4) 昭和31年，第1回関東地区中学校保健体育研究会が開催された。

(5) 事務局を千葉市花園中学校に移す。

昭和35年当時，中学校284校（生徒数約175,000名），小学校数は500校（児童数約295,000名）

3．組　　織

（表Ⅰ）



組織は，表１の通りである。県下に20支部（８市，12郡）を設け，事務局を千葉市葛城中学校におく。

歴代会長は多賀四郎（五井中長），渡辺藤三郎（大網小長），渉谷敬敏（宮本中長，31年～35年），矢村春雄（八街中長）

(Ⅲ) 千葉県高等学校体育連盟

１．連盟の設立

(1) 太平洋戦争後の混迷した社会の中で，わずかながら明るい希望を与え，いち早く復興のさきがけをしたのが体育，スポーツであった。昭和21年９月には，千葉県学徒振興会主催で戦後第１回県下中学校体育大会が開催され，第２回まで行われた。この大会は当時県庁学務課が主体となって，企画，準備，運営が為された。

この頃より，県体育協会設立の気運が起り昭和22年５月に設立された。又昭和22年末に学制改革の実施が文部省より発表され，新制の中学校と新制の高等学校が誕生した。時に松戸節三（千葉高校）が中心になり千葉県高等学校体育連盟の結成に努力した。

(2) 昭和23年２月に設立準備委員会を開く。次いで３月県下高等学校体育主任会議をもち，規約審議，役員の選出をした。初代役員は次の通りであった。

○委員長……木内　清（木更津中学校）

○副員長……松戸節三（千葉高等女学校）

西村撲二（千葉中学校）

(3) 昭和23年４月20日新制高等学校として出発した千葉高等学校において歴史的な発会式を挙げた。

設立の趣旨は，体育を教育の一環として位置づけ，高等学校の体育の指導の在り方を研究し，対外競技を正しく方向づけることにあり，爾後の加速度的発展に多大の貢献をした。本県高等学校体育連盟の発足は全国的に極めて早い方で，全国高体連を組織する先駆者となった。

２．連盟の発足期

(1) 昭和25年には，組織の上で大いなる変革がなされた。それは委員長執行制を改めて会長，理事長制にしたことであった。即ち会長には，安田千葉高校長，副会長には，西沢正，木内清，理事長には，松本節三が決定した。尚専門部（種目別）の部長には，専門部委員長在職の校長が就任した。このことは専門部活動強化の実を挙げるに役立った。

専門部は次の通りであった。陸上競技，水泳，相撲，蹴球，ソフトボール，体操，テニス，バスケットボール，卓球，庭球，排球，ボクシング，ハンドボール，山岳であったが，昭和26年より柔道，バトミントンが加えられ15専門部となり，組織は一層強固なものになった。

(2) 昭和26年７月，松戸節三が県教育庁に転出に伴い後任理事長に石野八百治が選出された。

(3) 昭和29年より綜合体育大会を教育委員会と共催しないようになった。

(4) 昭和30年高体連の在り方に反省が加えられ，競技会の開催，運営だけでなく，今後の事業はクラブ顧門及び生徒の研修会，講習会並に体育の研究を為すべきであるという気運が盛り上り，昭和31年には，機関紙「高体連」の発刊を見た。昭和32年３月には，体育研究及定時制が事務局より分離独立して専門部となった。

３．連盟の充実期

(1) 昭和35年には分担金の増額が決まり生徒１人当り35円になった。これに伴って，千葉市を中心に綜合体育大会を開くこととなり，昭和36年６月準備委員会が組織され，８月24日第13回綜合体育大会が，千葉寺綜合運動場で参加校70校（参加人員5,367名）で花々しく開催された。

(2) 高体連機関紙の発刊

(i) 高体連会報の発行は懸案事項であったがようやく31年6月に発刊することが出来た。第2号は昭和34年6月に発刊の運びになったが，体育研究部が中心になり編集した。これには新たに現場における教師による研究が掲載された。その研究題目，氏名は次のようであった。

○ 進学者の身体，生活時間の研究　三枝清一（県立銚子高校）
○ 高校生の運動能力　山崎幸治（千葉第1高等学校）
○ 体育教師と徒手体操　並木　茂（小見川高校）
○ 体育実技指導の形態について　高橋重之（千葉商業高校）
○ 体育指導者の生活と意見　石田　稔（長生第1高校）
○ 高校体育指導者と視聴覚教育　藤森寿男（市立館山高校）

その他専門部の活躍，競技記録等が掲載された。

(ii) 高体連3号は35年7月に発行された。研究題目，氏名は次のようである。

○ スポーツの倫理について　隆　高鑑（木更津第2高校長）
○ 剣道と道徳　石田　稔（長生第1高校）
○ 跳躍のキネシオロジー　石川　昭，広橋義一（君津農林高校）
○ 月径と保健体育　三枝清一（県立銚子高校）
○ 保健科教育の問題点　山崎幸治（千葉第1高校）
○ 保健教育の重要性について　下村正信（千葉商業高校）

(iii) 第4号は昭和36年7月発刊された。研究題目，氏名は次のようであった。

○ 医学から見た保健と体育の諸問題　黒田善雄（東京大学教授）
○ 跳躍運動踏切時の衝撃力について　相川量平（般橋高校）
○ 疾走における要因の考察　広橋義一（木更津東高校）
○ トレーニングについて　黒羽義治（国府台高校）

その他各ブロックの動きや各専門部活躍のあとが掲載された。

(3) 役　　員

歴代会長，副会長，理事長は「表2」の通りである。

（表2）

期	年　度	会　長	副　会　長	理　事　長
1	23 ～ 24	木内　清	西村　璞二，松戸　節三	
2	25 ～ 26	安田　裕	西沢　正，木内　清	松戸　節三 石野　八百治
3	27 ～ 28	山口　久太 諸川　芳雄	木内　清，内田　早苗	石野　八百治
4	29 ～ 30	諸川　芳雄	木内　清	石野　八百治
5	31 ～ 32	諸川　芳雄	山口　信一，木内　清	石野　八百治
6	33 ～ 34	林　信義	山口　信一，木内　清	石野　八百治
7	35 ～ 36	林　信義	山口　信一，木内　清	石野　八百治

(Ⅳ) 千葉県大学体育連盟

千葉県大学体育連盟は，県下大学教官を母体として，昭和37年６月に発足を見た。その設立の趣旨は，大学体育の研究，協議を行い，大学体育の使命を達成すると共に学生の体力向上を計ることを目的とした。事務所を千葉大学教育学部に置いた（後千葉大学教養部に移す)。遠山喜一郎が中心となり設立し，会長は松木鉄太郎，理事長は下平翅男であった。

(1) 事　　業

(i) 研究協議会の関催

(ii) 研究資料の蒐集，交換

(iii) 各種競技会の開催

(iv) その他

(2) 昭和39年度の行事については各担当理事のもとに行うことにした。担当理事は次のようであった。

○ 剣道　鈴木(政)(千葉大)
○ 柔道　片岡　（千葉工大）
○ 庭球　斉藤　（順天大）
○ 卓球　椿　　（東邦大）
○ 排球　新堀　（千葉大）
○ 野球　下平　（千葉大）

各種目の実施結果は次の通りであった。

○ 剣道　５月　千葉大優勝
○ 柔道　５月　千葉工大優勝
○ 庭球　５月　千葉大優勝
○ 卓球　５月　千葉大優勝
○ 排球　６月　順天大優勝
○ 野球　春期リーグ　千葉工大優勝
　　秋期リーグ　東邦大優勝

その他空手，ラグビー，弓道はそれぞれ親睦練習会を実施した。

尚12月13日には千葉敬愛大の体育館を会場として，籠球，卓球，排球を参加会員により実施する。その後順天大の斉藤先生の,「訪ソ報告会，研究協議会」が持たれた。

その後は引続いて以上のような行事が行われている。

(Ⅴ) 千葉県女子体育連盟

１．昭和29年中央では，日本女子体育連盟の結成が為された。これを受けて本県においても千葉県女子体育連盟設立の準備活動を開始した。機熟し昭和31年４月発会の運びとなる。会員の分散をさけるため，千葉県体育学会の協力を得て，入会者は県内においては千葉県体育学会の女子部として活動し，県外に対しては，日本女子体育連盟千葉県支部として機能した。

事務所を千葉大学教育学部体育研究室におき，会長は三浦貞子であった。

２．事業内容は次の通りである。

(1) 実技講習会

(2) 水泳講習会（毎年参加者が100名を越えている）

(3) ダンス講習会

(4) 研究発表会

(5) その他

3．組　　織

県内を8ブロックに分け，ブロック毎に活動をする。行事内容は次の通りである。

(1) 授業研究
(2) 実技研修
(3) ダンス発表会
(4) 調査活動

ブロックの構成は次の通りである。

(1) 第1ブロック……市川，松戸地区
(2) 第2ブロック……般橋，八千代，習志野地区
(3) 第3ブロック……印旛地区
(4) 第4ブロック……山武，長生地区
(5) 第5ブロック……香取地区
(6) 第6ブロック……海匝地区
(7) 第7ブロック……千葉地区
(8) 第8ブロック……市原地区

特にブロックの活動を通じて研修をし，県下を一丸とした行事を毎年実施しており，年次を経る毎に活動も充実しつつある。

尚昭和51年11月14日～15日の2日間にわたって，第8回全国女子体育研究大会（県教委と共催）を館山市で実施し，千葉県女子子体育連盟は主管の任務を完遂した。

(Ⅵ) 日本体操研究会

1．結　　成

昭和37年11月に発会式をあげた。事務所を千葉大学教育学部体育研究室におき，会長は遠山喜一郎，理事長は，鈴木秀一，時の会員数は300余名に達した。この会の目的は,「体操の理論と実際を研究し，体操の向上と発展に寄与する」にあった。

2．年間の行事

年間の行事は次の通りである。

(1) 体操に関する調査・研究，ならびに実技の研修
(2) 研究発表会，研究協議会，練習会等の開催
(3) 体操の器械，器具の研究
(4) 機関紙および図書の刊行
(5) そ の 他

この会は，遠山会長を中心にして誕生した研究組織であり，実践第1主義を目標とした。尚この会の信条は次の通りである。

(i) 誠意を以て貫こう。
(ii) 礼節を尽して，譲りあい。
(iii) 信頼しあって任せよう。
(iv) 進んで実行，なしとげよう。
(v) 互に協力みんなで築こう。

3．行事の動向

(1) 昭和36年2月以降，月例練習会を附属小学校講堂で開催

(2) 昭和37年11月第1回総会を開き，会則，役員組織を決定
(3) 昭和38年定例研究日を月3回とし，理論と実践の研究を進めた。
○同年6月会報第1号を発刊した。
○同年8月千葉市花園中学校で第1回の夏期講習会を開催（参加者100数10名）
(4) 昭和39年3月千葉大学教育学部講堂で研究発表会，総会を開催
○同年3月会報2号を発刊する。
○同年8月第2回夏期講習会を千葉大学体育館で開催

4．研　　究

(1) 昭和37年より「集団行動の科学的研究」「徒手体操の系統と配列について」「柔軟度の研究」を継続的に実施している。
(2) 日本体操研究会の体操を制定した。
(3) 徒手体操の性格と意義づけを整理し，図表化した。
(4) 小学校の低，中，高学年別および中学校男女別の徒手体操を考案検討中である。
(5) 手具体操，座臥体操，組体操の研究
(6) 器械運動の段階指導の研究

(Ⅶ) 千葉県体育学会

1．設　　立

戦後日本教育界は，民主主義をその拠どころにして，教育の科学的，合理的研究と実践の方向に進んだ。体育界においても，その潮流の中にあって，中央では早くも日本体育指導者連盟（昭和21年12月誕生），日本体育学会（昭和25年設立）の結成が為されておった。このような背景の中で，本県でも県体育課，課長補佐望月健一が中心となり，昭和29年3月千葉県体育学会の設立された。時の会長は佐藤良一郎，理事長は遠山喜一郎で事務所を千葉大学教育学部体育研究室に置いた。

本会は中央に対しては，日本体育指導者連盟，日本体育学会の千葉県支部としての繋りをもち，昭和37年11月千葉県学校体育研究連合会の発足にあたり，独立の機能を持つと同時に，その構成団体の一翼を担い，行事内容の重複を僻ける意味を以て，その大部分を連合会に移譲した。それ迄は，県内では唯一の研究団体として，千葉県女子体育連盟をも包含しておった。

2．目的，事業

本会をその使命を達するため，次の事業を行い，県下学校体育振興に寄与した。

(1) 研究発表会の開催
(2) 研究会，講習会，講演会の開催
(3) 研究図書の発刊
(4) 学校体育優良学校の表彰，推せん（全国学校体育優良校）
(5) そ　の　他

以上の事業活動を年々積み重ねて来たが，その主なるものを記述すると次の通りであった。尚研究発表会と学校体育優良学校の表彰は県教育委員会と共催で行った。

3．活動状況

(1) 昭和30年度の活動状況は次の通りであった。
(i) 実演会（7月9日教育会館，11月27日八日市場市，体操と映画の夕）
(ii) 実技講習会（12月25日～26日四街道体育館……参加者150名）
(iii) 研究発表会，学校体育優良学校の表彰（31年3月10日自治会館）

(iv) 会報発行（年度内3回発行した）

(v) 総会（4月28日，千葉大学教育学部）総会終了後,「教育における体育の位置について」と題して，千葉大学教授芳野英昌の講演がもたれた。

(2) 昭和31年度の活動状況

(i) 講習会（8月25日～26日匝瑳高校，12月25日～26日県体育館）

(ii) 実演会（10月6日昼市営グランド，夜県体育館の2回，メルボルン，オリンピック体操選手歓送会として実施，男子6名，竹本正男，河野昭，小野喬，相原信行，塚脇伸作，久保田正躬，女子6名，池田弘子，田中敬子，久保田恭子，曽我部和子，関鈴子，坂下千律子）一般，学生，生徒，児童数1,000名が観覧極めて盛会であった。

(iii) 研究発表会，学校体育優良学校表彰講演会……昭和32年2月9日附属小学校講堂で行う。

(iv) ダンス発表会（12月2日教育会館で日本女子体育会館設立募金を兼ねて開催する）

(v) 会報発行（3回……6月，7月，11月）

尚研究発表会は毎日新聞千葉支局の後援のもとに行われた。発表者は次の通りであった。

○ 職場体育の研究（其の1）千葉第1高校伊井正美

○ 職場体育の研究（其の2）千葉第1高校相川量平

○ 跳び越し指導の研究（跳箱）安房郡保田小　波佐間伊三夫

○ 中学生耐寒訓練の生活に与える影響　千葉市花園中　小池政嘉

○ 運動クラブ員の健康管理について　館山二中　体育主任

○ 吾が校の体育実践経過について　銚子海上小学校　体育主任

○ 体育学習方式による実践成果とその考察（助け合いカードを中心とした展開）館山北条小　川上賢尓

この時,「メルボルン，オリンピック報告」と題して遠山喜一郎の講演会並に記録映画の映写が行われた。

尚佐藤良一郎会長，千葉大学教育学部長定年退官のため辞任，後任に敬愛大学長，長戸路政司が就任した。時に会員数は191名であった。

(3) 昭和32年度の活動状況

(i) 実技講習会（7月25日～26日館山市北条小学校で小学校，中学校体育指導者を対象に行う。講師は遠山喜一郎，島田良吉，島崎旺，望月健一，林君代であった）第2回目は12月25日県体育館で冬期体育の実際について，講師は，遠山喜一郎，鈴木純，松戸節三，眞行寺清，鈴木秀一であった。

(ii) 研究発表会，学校体育優良学校表彰，研究協議会，映画会，12月27日千葉大学教育学部附属小学校講堂で行う。研究協議会は「体育と道徳教育について」行い，映画会は「オリンピック選手活躍のあと」であった。

(iii) 研究発表会における発表者は次の通りであった。

○ 校内競技の学級経営に及ぼす影響について　千葉市花園中　小池政嘉

○ 戸田小の体育科経営，市原市戸田小　鈴木　健

○ 睦中の体育科経営　千葉市睦中　初芝　操

○ 中学校における必修時体育（陸上競技）の一考察　千葉大学　野口博司

○ 集団行動の指導について　千葉市椿森中　鈴木　平

○ 戦前と戦後の体位比較　県体育課　時田剛夫

○ 農村体育におけるレクリエーションの一考察　千葉大学　山口順一

○ 体育を通して望ましい人間関係を育てるには（グループ学習について）千葉市高萩小

椎名清美

○　体育の科学的評価　千葉市千城小　石井文雄

○　器械運動の段階的指導について　千葉市稲毛小　藤木眞己

○　バレーボールのサーブ打法の研究　千葉大学　宇佐見武男

○　小学校体育の到達目標と各地の動向　県体育課　望月健一

○　水泳における段階的指導の一考察　千葉大学　杉山　実

○　身体検査と健康指導に関する一考察　千葉大学　中後　昭

○　レクリエーションの基礎理論について　千葉大学　島田良吉

(4)　昭和33年度の活動状況

(i)　講習会（4月19日～20日，稲毛小にて「体育の年間計画の作成及び発展的系統的指導について」講師は，遠山喜一郎，島田良吉，望月健一，鈴木純，林君代，鈴木秀一，高橋重夫であった。)第2回は8月20日～22日県体育館で「技術と研修」を主とした。講師は遠山喜一郎，鈴木政男，島崎旺，鈴木秀一であった。第3回は，12月25日～27日の3日間県体育館で「新指導要領の解説と冬期体育について」講師は，遠山喜一郎，鈴木秀一，眞行寺清，鈴木純，三浦貞子，林君代であった。

(ii)　実演会（10月31日千葉市競輪場において「トランポリン世界選手者，ローマー，体操世界選手権大会優勝日本選手による模範演技会」が，県体育協会，県教委，県体操協会共催，朝日新聞千葉支局後援にて，観衆数1,000名により盛大に実施された。尚当日の選手は次の者であった。

○　アメリカ……フランク・ラデュウ，ジョージ・ニッセン，マリー・ニッセン

○　日本……塚脇伸作，伊奈正直，三栗崇，渡辺二良，藤本昌男，曽我部和子，小野清子，関鈴子，塚田紀美子，松本幸栄の男女10名であった。

(iii)　研究発表会，学校体育優良学校表彰，映画会（34年1月31日千葉大学教育学部附属第1小学校講堂で県教委と共催，毎日新聞社後援で行われた）

(iv)　体育手帳の編集（6月3日，10月3日編集委員会開催）

(v)　会報発行（7月，12月，3月の3日間）

尚研究発表会の発表者は次の通りであった。

○　学校経営と体育教育について　柏市柏中　一ノ瀬義昭

○　中学校女子バレーボールパスの練習方法について　千葉大学　青山準一

○　器械運動の指導の在り方　印旛富里中学校　矢村春雄

○　町村体育の在り方についての一考察　千葉大学　木島　肇

○　教科時における器械運動の指導について　香取久賀中　宇井荘太郎

○　体育における社会性の育成について　千葉市高萩小　椎名清美

○　中学校における教科体育指導の在り方について　船橋市船橋中　面高正孝

○　器械運動の系統的指導　君津郡松丘小　小原　誠

○　剣道の試合における心身の作用について，千葉大学　山本正雄

○　器械運動の段階的指導（主として実践の結果より）習志野市津田沼小　白井忠助

○　器械運動の低学年の基礎指導について　千葉市轟小　染谷和弘

○　野球の三塁手について　千葉大学　佐藤晴雄

○　合宿におけるフリッカー価　県体育課　米田敏郎

○　ブリッジは足の長さによって，どのように左右されるか　千葉大学　佐藤晴雄

○　道徳教育と体育　千葉市轟小　石井文雄

(5) 昭和34年以降については，他日に譲るとして，学校体育優良学校の表彰について述べる。

(i) 千葉県学校体育優良学校選考基準によって選考した。その基準は次のようであった。

○ 学校体育の目標に沿い，学校の実態に即して，綿密なる指導計画を立て継続的に指導して，その効果をあげているもの。

○ 体育指導の目標に即した施設，用具が整備され，これを活用して指導効果をあげているもの。

○ 体育と他の教育活動が良く調和して全教官が一致協力して効果をあげているもの。

○ 必修時，特別教育活動，自由時の体育組織，運営がよく調和工夫され効果をあげているもの。

○ 体育の調査，研究が継続的に行われて，それらが実際の指導に役立っているもの。

○ 学校と地域社会が密接に連繋を保ち体育指導の効果をあげているもの。

以上によって選考（県表彰，全国表彰推せん）された学校（県表彰校は表3は次の通りであった。

全国表彰校

○ 昭和27年度　山武郡大網小学校

○ 昭和28年度　佐原市佐原中学校

○ 昭和29年度　千葉市院内小学校

○ 昭和30年度　銚子市本城小学校・印旛郡八街中学校・長生第1高等学校

○ 昭和31年度　銚子市海上小学校・館山市第2中学校

○ 昭和32年度　市原市戸田小学校・千葉市睦小学校

○ 昭和33年度　君津郡松丘小学校・香取郡久賀中学校

○ 昭和34年度　津田沼市津田沼小学校

(表3)

地区＼年度	昭和29年度	昭和30年度	昭和31年度	昭和32年度	昭和33年度	昭和34年度	昭和35年度	昭和36年度	昭和37年度
千葉	院内小	睦中	小仲台中	千城小	津田沼小 船橋中	稲毛小	泉町立南部小	椿森中 鬼高小	葛飾小
東葛	市川小	野田東部小	松戸五中	市川四中 川間小	柏中	柏三小	松戸二中	流山南部中	宮崎小
印旛	根郷小	八街中	交進小	安食中	富里小	富里中	遠山中	酒々井中	宗像中
香取	久賀中	東城小	石出小	高岡小	高萩小	佐原四中	新島小	十余三小	大倉小
海匝	須賀中	本城小	飯岡中 海上小	共興中	銚子三中	旭中央中	平和小	高神小	旭一中
山武	睦岡小	公平中	白里中	山辺小	日向小	上堺小	睦岡中	白里小	増穂中
長生	一松中	豊田小	八積中	富士見中	日吉小	鶴枝小	一松小	新治小	高根小
夷隅	大原中	大原小	勝浦中	西畑中	大原東小	国吉中	荒川小	千町小	上野中
安房	田原中	館山二中	保田小	館山東小	八東中	天津中	天津小	館山小 南三原中	南三原小 富浦中
君津	小櫃中	木更津一小	松丘小	周南中	平岡小	富岡中	鎌足小	大貫中	巌根中
市原	戸田中	市西小	戸田小	里見中	五井中	鶴舞中	姉崎中	朝山小	大久保小
高校	長生一高	佐原二高			匝瑳高				船橋高

(Ⅶ) 千葉県学校体育研究連合会

1．設　　立

昭和37年3月，時代の要請により財団法人日本体育指導者連盟を発展的に改組して新しく学

校体育研究の組織である財団法人日本学校体育研究連合会（会長，東俊郎）が設立された。これを受けて下部団体である千葉県体育指導者連盟も改組して該連合会に加盟して，全国的視野に立った研究団体を設立する必要に迫られた。このような経過のもとに，昭和37年10月に設立されたのが，千葉県学校体育研究連合会である。

2．本会の目的，事業

本会は事務所を教育庁体育課に置き，県下学校体育研究活動の促進および会員の親睦ならびに学校体育の充実を図ることを目的とした。尚構成団体として，小中学校体育連盟研究部，高等学校体育連盟研究部，千葉県大学体育連盟，千葉県体育学会，日本体操研究会の五団体を一丸として結成された。本会の事業内容は次の通りであった。

(1) 体育の指導，研究に関する調査および基本方針の審議
(2) 県および市町村関係諸機関，団体への建議
(3) 研究会，講習会の開催
(4) 学校体育優良校の推せんおよび表彰
(5) 県内外の学校体育研究団体との連絡提携
(6) その他本会の目的達成に必要な事業

尚昭和37年11月8日日本学校体育研究連合会発足後の第1回総会，研究会が津田沼小学校で開催され，研究発表会，研究授業の展開等全国より数1,000名の参加会員を迎えて盛大に開催された事は特筆すべき事柄であった。

3．本会の役員は次の通りであった。

会　　長　長戸路政司
副 会 長　遠山喜一郎，片岡語咲
理 事 長　羽山孝二
常務理事　島田良吉，島崎　旺，鈴木秀一，木原治一，小宮山寛，相川量平，川島省吾，三浦貞子，矢村春雄

4．活動経過

(1) 第1回研大会を昭和38年12月4日，千葉市稲毛小学校で開催した。
(i) 研究授業展開（低，中，高学年別）
(ii) 研究発表会（題目，氏名）
○ 小学校における基礎的運動能力の向上策　千葉市院内小学校　花沢義孝
○ ポートボールの基礎的技能の活し方　千葉市稲毛小学校　石井由昌
○ 基礎体力を高める学習指法　安房郡富浦中学校　新藤英世
○ 徒手体操の構成について　千葉大学研究生　鈴木祐一郎
○ 基礎体力を高める年間指導計画の一考察　船橋高等学校　青柳正吾
○ 体育の考え方　千葉大学　島田良吉

尚当日「ヒマラヤ学術調査から帰って」と題して，千葉大学教授　沼田眞の講演がなされた。

(iii) 11月29日，全国学校体育連合会の大会が神戸市で開催され会員を派遣した。

(2) 昭和39年11月25日第2回研究大会を市原市五井中学校で開催した。
(i) 研究授業の展開（各学年別）
(ii) 研究発表会（題目，氏名）
○ 徒手体操の発生と低学年指導について　千葉市轟小学校　石井文雄
○ 学習効果を高めるための能率的指導はどのようにしたら良いか　千葉市検見川小学校　石井芳郎

○　近代的トレーニングについて　千葉市緑町中学校　細川義次
○　基礎的運動能力を高めるための学習指導法について　県立銚子高校　渡辺佳胤
○　ダンスにおける基礎運動の指導理念　千葉大学　小林信次

あとがき

千葉県学校体育の発展，振興に多大なる貢献を為した。関係機関，研究指導団体の設立の経過並に活動状況につき概観を試みた。しかし乍ら振り返って見るに，資料の濃淡により，完を期するに至難であったことを痛感して止まない。不備な点は今後の課題としたい。尚千葉県体育学会の活動中の出版物「運動場の芝生」昭和34年,「保健体育手帳（私の成長）小学校編」昭和35年共に育英図書より出版したことを書き添えたい。

参　考　文　献

(1)　千葉県教育百年史
(2)　千葉県庁20年史
(3)　千葉県スポーツ史
(4)　学校体育研究１号～９号
(5)　千葉県体育学会事務局綴
(6)　千葉県学校体育連合会記録